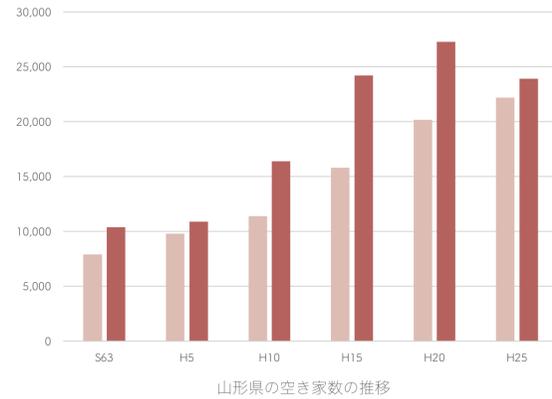


### 1.3 背景

#### ① 空家問題

近年日本では空家問題が進行しており、特に地方都市における空家増加率は著しい。山形県でも空家問題はとて大きく、右のグラフでもわかるように年々空き家が増加している。  
中心市街地である七日町商店街でも、郊外に大型ショッピングモールが作られたことで人が流れ、近年では大型百貨店が相次いで閉店された。現在は新しい店舗も増えてきてはいるが、まだまだ空きテナントは多く見られる。



七日町商店街周辺の空きテナント

#### ② サードプレイスの現状

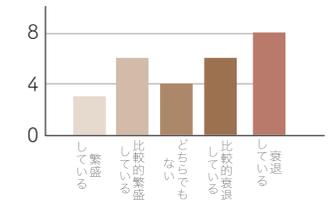
サード・プレイスとは、コミュニティにおいて、自宅や職場、学校とは隔離された、心地のよい第3の居場所を指す。サード・プレイスの例としては、カフェ、飲食店、公園などである。七日町商店街が職場の方や、通学路として利用している学生が多い中、商店街の中には地域コミュニティが少ないように感じる。サードプレイスとして交流が生まれるような場所も少なく、コロナ禍になってより減少していると感じた。

### 1.4 アンケート調査

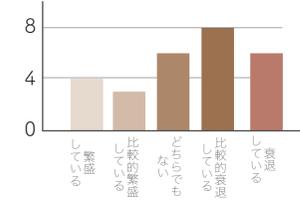
七日町商店街主に向けてのアンケート

商店街にある個々の店舗の現状やコロナ禍になってからの変化や、商店街全体の利用の仕方や交流、活性化に向けての思いを知る。その上で、商店街の魅力が増えるように商店街主らが働きかけることができるようなシステム作りや、必要とされている施設を提案するためのデータを集めることを目的とする。

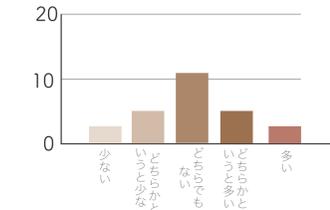
営業当初に比した現在の店舗の売り上げ



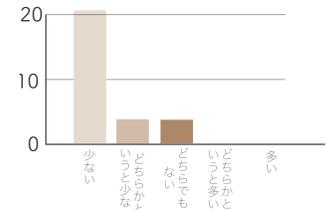
コロナ初期（2020）に比した現在の店舗の売り上げ



コロナ以前の商店街の人通りの多さ

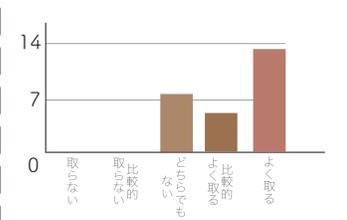


現在の商店街の人通りの多さ

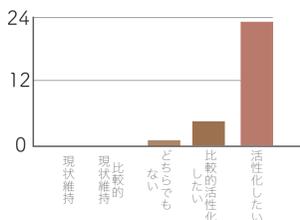


新型コロナウイルスの影響を商店街全体で受けている  
コロナ以前も人通りが多いというわけではなかったが、コロナ禍になり急激に人通りが減少した。

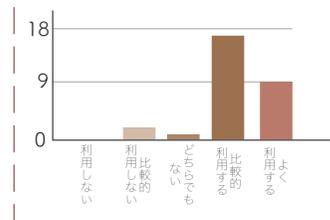
現在のお客様とのコミュニケーションの量



今後商店街をどうしていきたいか



現在商店街にある店舗は



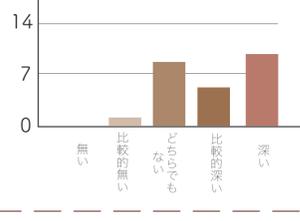
商店街全体に対する不満

- ・空き店舗が目立つ
- ・昼間人口が少ない
- ・夜が静か、暗い、シャッター街
- ・若い人たちが集まる場所が少ない
- ・しまっているお店（閉店した）が多くなっている
- ・休日の開店数が少ない



商店街の雰囲気は静かで暗い場所となっている

今後のぞむ商店街同士の繋がり



商店街で働いてる方々はお客様と積極的にコミュニケーションを取るなどして盛り上げようと動いている。活性化に意欲的であることが分かる。

商店街の店舗を利用する方は多くいるが、偏りがある方が多いため浸透していない店舗が多いと考えられる。

### 調査から分かった七日町商店街の課題

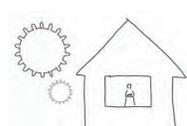
空きテナント問題



活性化への意欲



新型コロナウイルスの影響



店舗の浸透率問題



サードプレイスの現状



### 1.5 提案

「まちの居場所」

「梅花藻」

地元の方が気軽に利用することができ、居心地の良いサードプレイスの要素を取り入れた場所。カフェや勉強スペースなどが含まれた複合型施設とする。

「分散型ホテル」

「津々堰々」

通常のホテルに備わっているレストランやお土産ショップなどを商店街の店舗で購うホテル。客室は商店街周辺の空きテナントを利用する。